

市立全小中に「学校司書」

市教委、新年度拡大 貸出冊数増など効果

横浜市教委は新年度、学校図書館で図書の貸し出しや蔵書整理などを行う専任職員「学校司書」の配置を、市立小中学校と特別支援学校の全499校に広げる。子供の読書意欲を高めるため、2013年度から4年計画で配置を進めてきた。本の貸出数アップにとどまらず、様々な効果が表れている。

市立白根小学校(旭区、

持丸隆一校長)で13年から学校司書を務める白田好恵さん(47)は、「人気かじだしランキング」として哲学、歴史、社会科学、芸術、文学などのジャンル別に3位まで図書館の壁に掲示して紹介。校舎階段の各ステッ

プに早口言葉や俳句を貼り、児童が日常的に学べる環境づくりに一役買う。図書ボランティアと学校との「つなぎ役」も大きな

役割だ。保護者ら25人ずつくる「ブックレンジャー」が、児童が進学する中学校の図書館を取材し、模造紙に写真などを貼って教室の廊下に掲出した際、白田さんは学校間の調整にあたった。「子供たちに読書の楽しさを伝えるボランティアの役に立てれば」と話す。

15年の学校図書館法改正で学校司書の配置は努力義務

務となった。12学級以上の小中高校では図書館の専門知識がある教員「司書教諭」の配置が義務付けられているが、多忙さが課題だった。同校の広崎優香司書教諭は1年生担任との兼務で、「図書関係の仕事に手が回らないのが実態。ボランティアとの連携で図書館がきれいになり、とても助かっている」と話している。

市教委によると、ある小学校では学校司書の効果で14年度の貸出冊数が前年度の5倍以上に増えたという。

新年度予算案には、全校配置費用として6億2500万円が計上されている。